



アンテナショップを拠点として
安全で新鮮な農産物を提供し
喜多方市と中野区との交流を深め、広げていく
気さくて温かい「ちから」

◀新谷正樹 さん
農業生産者団体
「身土不二」事務局長
昭和55年生まれ

中野の好きなおとこ
中野区のみなさんが
温かいところが好きです。
だからこそ、今までやって
こられたように思います

なかの里・まち
アンテナショップを
始めたきっかけは

福島県の喜多方市内で、JAS(日本農林規格)認定のこだわりの有機野菜を販売するアンテナショップを運営していました。

しかし、地元の野菜を地元で販売しても、価格競争で農家が衰退し、まちおこしの意味がなくなってしまうのです。それならば、東京でこの農産物の良さを伝えられないだろうかと思い立ち、川島商店街と野方駅近くに店舗を構え、会津の農産物を直送販売する事業を始めました。

そんな活動をしているうちに、喜多方市と中野区が「なかの里・まち連携事業」(*)を通じて交流をしていることを知り、連携自治体の生鮮食料品を中心とした販売ができたらと考えるようになった。そこで、昨年3月から「田舎のばあちゃんからのおすそわけ」という店名で、なかの里・まちアンテナショップの取り組みを始めました。

この活動の魅力や
難しいところは

田舎の農家では、白菜などがたくさん取れたら隣近所に配って歩くんですよ。それと同じように、東京へ出すからといって気張らずに、いつも農家の方が作って食べているものを、中野のみなさんへ「おすそわけ」することがテーマになっています。

当初は、喜多方市内の10軒の農家の協力を得て「身土不二」という生産者団体を立ち上げました。現在では、35軒まで増え、提供できる農産物の種類も豊富になりました。

毎朝採れたての野菜や果物をそれぞれの農家で袋詰めし、値段を決めてもらい、それを中野へ直送しています。

※なかの里・まち連携事業：区まちど地方都市(里)が交流を深めて、新しい時代に合った豊かさを作り出すための連携事業。連携自治体は、喜多方市・茨城県常陸太田市・千葉県船橋市・山梨県甲州市

田舎の雰囲気味わうために店に立ち寄ってください方もいれば、故郷でしか手に入らない農産物を見つけて、「これ食べたかったのよ、懐かしいな」と言ってくくださる方もいます。

農家の方から食べ方を教えてもらい、その情報をみなさんへお伝えすることもあります。例えば、「打ち豆」といって青大豆を木槌で平たく潰したものをおみそ汁に入れるとホクホクした食感でおいしいので、お客さんに紹介したことも。すると、「じゃあ、今度作ってみよう」と反応が返ってくる、そんな交流は魅力の一つですね。

会津地方は東日本大震災の被害はほとんどなく、被災者を受け入れることができた地域でした。それでも福島県産ということ、農産物への風評被害は厳しいです。

だからこそ、みなさんに安心して食べていただくために、放射性物質の検査をクリアした農作物のみを販売するよう徹底しています。

これからの目標は

現在、毎月第一月曜日は常陸太田市の農産物の販売日となっています。今後も他の「なかの里・まち連携事業」の自治

田舎のばあちゃんからの
おすそわけ

新井1-11-9
中野駅北口
徒歩7分
(中野通り沿い)

【営業時間】
午前10時～
午後7時
月曜日定休
(毎月第一を除く)



また、中野の声を会津へつなげていきたいので、私自身が地元の講演会や農業セミナーなどの場で東京の様子を話すこともあります。将来は、農業体験や農家での宿泊などでも交流を深められるような、双方向型のアンテナショップとして活動していきたいと思っています。



▲お店の一角で、商品を並べる新谷さん

世帯と人口 1月1日現在。()内は前月比

	世帯数	人口(人)			合計
		男	女	小計	
住民登録	177,086 (18増)	150,191 (37増)	148,589 (35増)	298,780 (72増)	310,198 (89増)
外国人登録	7,666 (13増)	5,458 (16減)	5,960 (33増)	11,418 (17増)	

次号予告

〈特集〉
税の申告受付が
始まります